東京都立埋蔵文化財調査センター　平成２９年度企画展示

東京発掘

TOKYO★Excavation

江戸っ子のくらしと文化

展示解説冊子

東京都立埋蔵文化財調査センター

台場を掘る!

幕末、諸外国の艦船が頻繁に来航する中、江戸を守るために築かれた品川台場は、八ヶ所の西洋式砲台陣地からなっていました。発掘されたのは第五台場。江戸湾の浅瀬に造られた人工島で、調査の結果、日本古来の高度な土木技術が凝縮されていることが確かめられました。

築造の手順は以下の通りです。

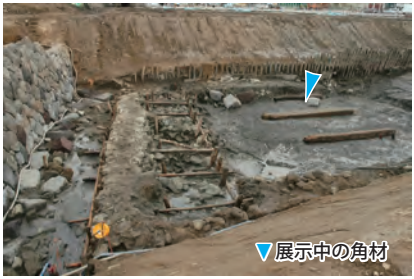
「品川五番台場之図」

「荏内藩藩庁文書」所収、阿部正巳文庫（鶴岡市郷土資料館所蔵）

一. 土丹石を外周に投入、内側には土丹石とともに砂利を入れて埋める

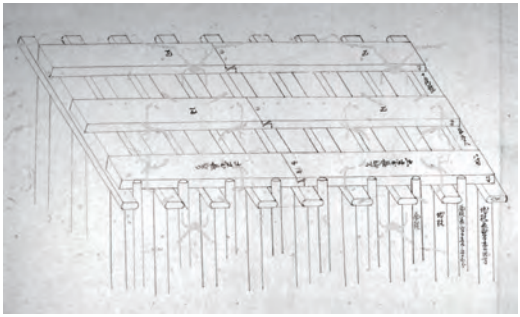
沖側の石垣とその周辺

大量の土丹石を取り除くと、木組杭列と石材運搬の修羅として使ったと考えられる角材が見つかった。



二. 一定の高さと強度になったら、長大な杭を打ち込む

三. 枕木・胴木を置いて石垣の基礎とする



「品川海岸御台場石垣地形絵図」

（港区立港郷土資料館所蔵）

碁盤の目のように組まれた胴木と枕木。その下に打ち込まれた大量の杭木で支え、沈降を防ぐ。

四. 石垣の上に土塁をめぐらせ、大砲を設置する

検出された石垣

【写真左】コーナー部は目地が横方向に揃う布積み、それ以外は目地が斜めになる谷積み。

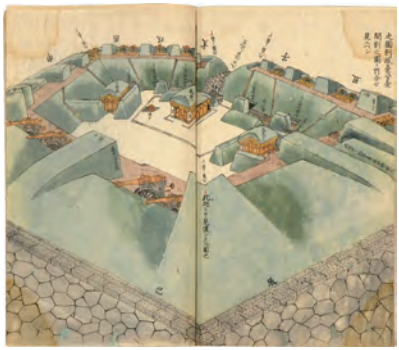
【写真上】石垣の石材どうしをつなぐ鉄製のジョイント「ダボ」が穴にはまったまま見つかった。

五. 弾薬庫や陣屋を建てる

発掘された陣屋の基礎

【写真左】最上部の胴木。右寄りに継手部分が見える。

【写真右】胴木の下の枕木。丸く見えるのは杭木の頭。



「異国船渡来・第六台場一件留」部分

安政 6（1856）年

（品川区立品川歴史館所蔵）

石材は三浦・房総・伊豆半島、木材は利根川・多摩川・相模川の流域など広い範囲から水運を利用して集められました。周辺の村々は総力をあげて、これを運搬しました。驚いたことに、これだけの施設を完成させるのに要した時間はわずか十ヶ月足らずだったのです。

台場に見られるような大規模な造成や土木工事は、実は江戸時代を通して行われていました。それによって整備された都市インフラが、近代東京の礎になったと考えられています。

考古版江戸世帯道具尽くし

江戸時代になると、生活の幅が広がり、時と場所に応じて様々な道具が使い分けられるようになりました。七厘や火鉢などは、囲炉裏やすえ付けのカマドがない都市の生活に応じて発達したものでした。また、夜遅くまで起きている人が多くなり、灯火具のバリエーションは大幅に増えました。国産の磁器が庶民の食卓に頻繁に上がるようになったのも大きな変化です。長い間、輸入にたよっていた通貨も国産化されました。

ここでは、こういった道具類を、当時流行したおもちゃ絵になぞらえて集めてみました。

おもちゃ絵「勝手道具尽」

作者不詳、江戸時代末

（東京江戸東京博物館所蔵）

七厘［新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡］

七厘本体に風口と五徳を装填し、漆喰や壁土などで固めて使う。18 世紀後半。

火鉢［新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡］

灰を入れておき、燃料としては炭を使う。炭は燃え上がらずに長持ちし、都市の生活にはもってこい。18 世紀後半。

「教草女房形気」

歌川国貞 / 画、19 世紀半ば
（東京江戸東京博物館所蔵）

灯火具のいろいろ

瓦灯 [新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

油皿を置く位置で、明るさを調節することができる。

油皿と受皿 [新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

油皿の下の受皿は、灯芯から縁を伝ってこぼれる油を受けるためのもの。

秉燭 [新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

秉燭は灯芯が器の中央に立てられるように工夫したもの。
いずれも 18 世紀前半。

棹ばかりの皿 [港区汐留遺跡]

分銅 [千代田区溜池遺跡]

ものさし [新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

精巧に作られた「はかる」道具。棹ばかり・分銅は厳しく統制されており、偽造を防ぎ品質を保証する極印が打たれている。棹ばかりの皿：17 世紀後半、分銅:17 世紀中葉、ものさし:17 ～ 18 世紀。

銭 [港区汐留遺跡]

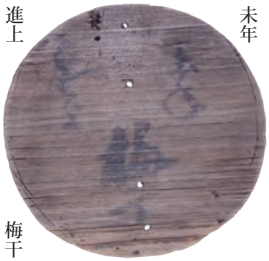
江戸時代の銭貨の中で、発行量も種類も多いのが寛永通宝。銭貨の発行は国としての自立に通じる。17 世紀中葉以降。

これらの道具の中には、私たちには馴染みの薄いものもある一方で、今でも使われ続けているものがたくさんあり、人々の暮らしが連綿と繋がっていることが感じられます。

江戸食べ物事情

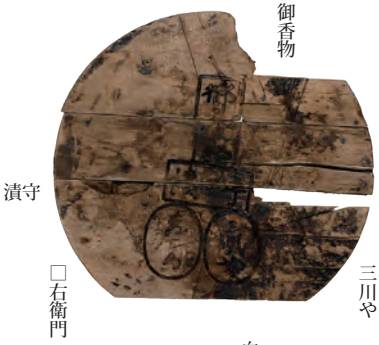
荷物に付けた宛先の木の札や食品容器の蓋。中身が墨書されたものも少なくありません。その内容から、当時の食べ物事情をみてみましょう。

全国から集まる様々な食品。贈り物として生活に彩りを添えたものもありました。



曲物の蓋 [千代田区溜池遺跡]

年始の品だろうか。「未年進上」とある。17 世紀後半。



曲物の蓋 [港区汐留遺跡]

「守漬」は愛知県の特産品守口漬のことか。17 世紀後半。

曲物の蓋 [港区汐留遺跡]

「たたき」は塩辛の類。「遠州あらい」は静岡県湖西市新居。17 世紀末～18 世紀初頭。

曲物の蓋 [千代田区溜池遺跡]

白砂糖が国産になるのは江戸後期で、主な産地は四国・南九州など。18 世紀末～ 19 世紀初頭。

木札 [港区汐留遺跡]

「しほ引」は魚の塩漬け。「横河」は宮城県石巻市横川。17 世紀後半。

木札 [港区汐留遺跡]

「御臺所」宛てなので「春鷺」は食材。観賞用ではない。17 世紀後半。

木札 [港区汐留遺跡]

「諸白」は上方産の高級清酒。裏面には贈り先と贈り主の名。17 世紀後半。

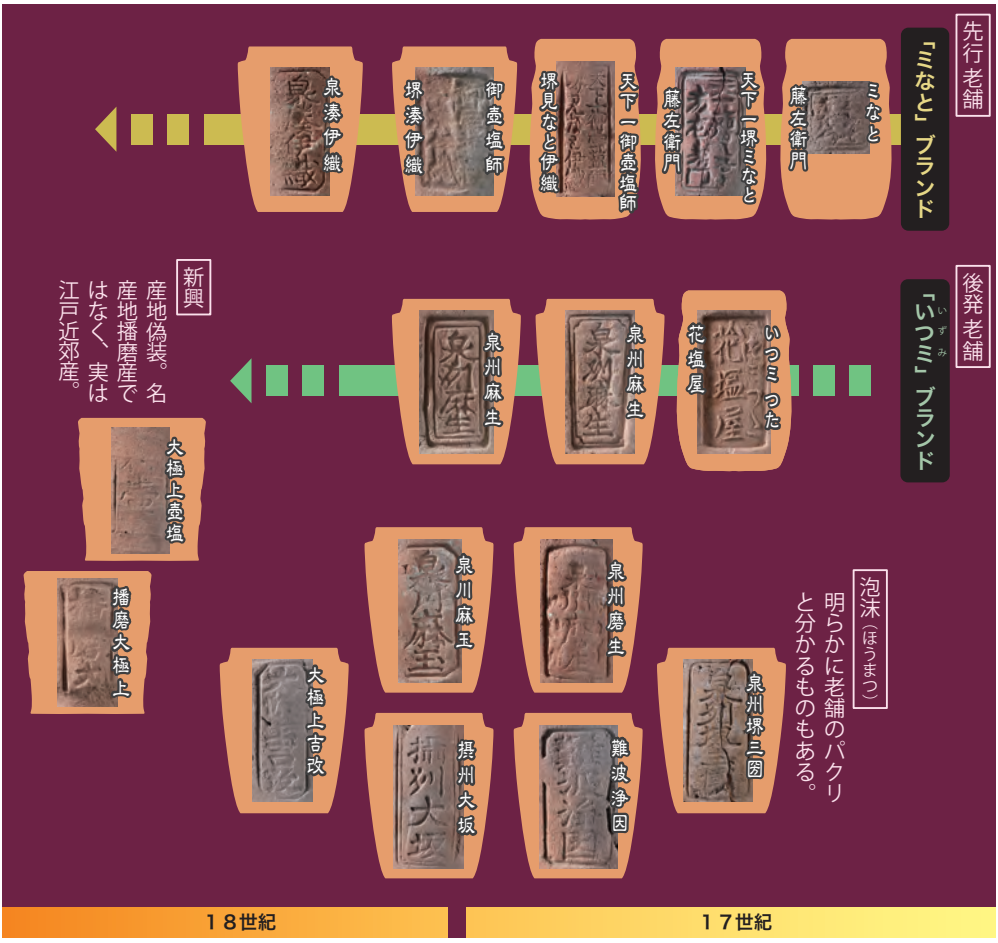
壺塩屋ブランド大合戦

素焼きの壺に塩を詰めて焼くと、味わいのある美味しい塩、壺塩ができます。この壺塩、壺ごと売られ、高級食卓塩としてもてはやされます。食卓が豊かになり塩一つにもこだわりが生まれたのです。

壺に押された刻印は壺塩屋のブランドマーク。刻印の種類や盛衰から熾烈な商戦が見てとれます。

様々な壺塩 [港区汐留遺跡]

身と同じような素焼きの蓋をして焼く。正面には刻印。形によって、作りも違う。



江戸のたしなみ

女の装い

デザインを凝らした化粧道具や髪飾りの数々。豊かになった生活を背景に、高貴な奥方も町娘も皆それぞれのおしゃれを楽しんでいたことがわかります。

柄鏡・手鏡
[新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

左：17 世紀後半、右：17 世紀末～ 18 世紀初頭。

上：様々な化粧道具
[新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

右：簪・笄・いち止め・指輪・簪玉
[新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡・新宿六丁目遺跡]

簪や笄は、銀や銅、鼈甲、骨、ガラスなど様々な素材が用いられている。指輪はガラス製。

趣味と嗜好

例えば、知性を演出する文房具に、囲碁・将棋や釣り道具など、趣味の道具も多彩です。キセルを使った喫煙習慣は、老若男女を問わず流行っていました。写真のような芝居小屋の入場券も出土しています。

切落し札 [港区汐留遺跡]

幕府公認の芝居小屋である「江戸三座」の中でも、森田座と市村座は大変な人気だった。17 世紀後半～ 18 世紀前半。

灰落し [新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

左：18 世紀前～中葉、右：18 世紀前半。

煙管 [新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

上：18 世紀後葉～ 19 世紀前葉、下：17 世紀前～中葉。

男の装い

武士のこだわりのアイテムは刀装具など。印籠・根付などは、町人も持っていました。素材やデザインにこだわるうちに、「粋」や「見栄」など江戸特有の文化が根付いていきました。

刀装具 鍔

[左：千代田区丸の内三丁目遺跡]

[右：港区汐留遺跡]

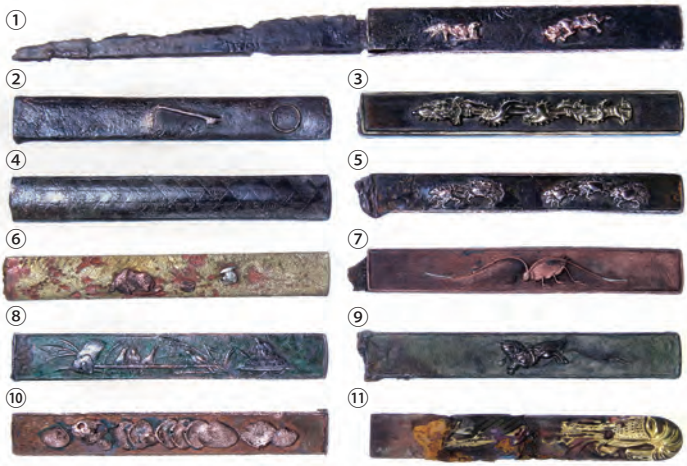
左：18 ～ 19 世紀、右：17 ～ 19 世紀。

刀装具 目貫 [新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

①・②「雁」（一対）、③「鶴」、④「獅子」、⑤「牡丹」か、⑥「橘」か、⑦「大根」。

刀装具 鵐目金具

[新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡・港区汐留遺跡]



刀装具 小柄（①～⑤）

[港区汐留遺跡]

①図柄不明、②「かま・わ・ぬ」、③「魚子地に倶利伽羅龍」、④「魚子地に鱗文」、⑤「蟹」。

刀装具 小柄（⑥～⑪）

[新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

⑥「牛と牛飼い」、⑦「魚子地に鈴虫」、⑧「魚子地に鍬・鳥・鎌・傘」、⑨「放れ駒」、⑩「魚子地に貝尽くし」、⑪「伊勢海老」。

刀装具 小柄（図柄の一部を拡大）

⑥牛飼いに銀象嵌、18 世紀中葉。⑦鈴虫の触覚先端部に銀象嵌。17 世紀末～ 18 世紀前葉。⑪伊勢海老に鍍金、18 世紀後半。

神よ！仏よ！

災害や病苦。抗いようのない災いの前では、人は祈ることしかできません。江戸の町からも、人知を超えた力にすがる祈りやまじないの痕跡が見つかっています。

右は、丸の内三丁目遺跡の祭祀遺構。約三寸（90cm）四方の穴の中に多数のかわらけと、呪文を書いた木札 12 枚が埋納されていました。木簡の内容から、神仏を習合した民間信仰の様子が浮かび上がります。

41 号土坑 [千代田区丸の内三丁目遺跡]

多数のかわらけが折り重なるように検出された様子。呪符木簡は土坑の底面付近から出土した。1630 年頃。

呪符木簡 [千代田区丸の内三丁目遺跡]

密教や中国の五行思想、陰陽道など様々な宗教の要素が盛り込まれている。結界を結ぶことで、外部の災いを封じ、家内の安全を祈願したのだろう。

12 地点 37 号土坑 [港区愛宕下遺跡]

類似の遺構は、愛宕下遺跡でも発見されている。

右の写真は、萩藩毛利家屋敷跡遺跡の地鎮（土地の神様を鎮める儀式）の痕跡。儀式で使われた輪宝・かわらけ・銭貨などが小さな穴の中に納められていました。かわらけの形などから推測して、屋敷が作られた初期のものと推定されます。

地鎮遺構 [港区萩藩毛利家屋敷跡遺跡]

出土状況から考えて、尺四寸（42cm）程度の木製台に並べられていたものが、そのまま土中に納められたものと推定される。まず。台の上に輪宝を置き、次いで、かわらけを 2 枚ずつ中央および八方に配する。銭は、さらにこの上に置かれたと考えられるが、出土状況から配置をうかがうことはできなかった。1640 年頃。

かわらけ [千代田区丸の内三丁目遺跡]

古来から「清浄な器」として神事にも仏事にも登場する。儀式の度に使い捨てられていたと考えられる。日本人の精神性に根ざした器ということができる。

東京都指定有形文化財（考古資料）

輪宝 [港区萩藩毛利家屋敷跡遺跡]

密教法具の一つ。伝説では、転輪聖王の行く手の前を進み、事前に障害を打ち破るものとされる。本例では、金銅製で細かい細工が施されている。

東京都指定有形文化財（考古資料）

永楽通宝（金銭）[港区萩藩毛利家屋敷跡遺跡]

永楽通宝（青銅銭）は、本来、中国・明の時代の銭貨。中世までは、主に中国の銭貨を輸入して使用していた。金銭・銀銭は日本で鋳造されたものと考えられている。

東京都指定有形文化財（考古資料）

子供の成長と遊び道具

江戸時代になると、子供用の玩具が大幅に増えました。玩具には、ままごと道具をはじめとして、泥面子、芥子面、人形、鈴、独楽、羽子板、刀などがあります。また、小さな箱や盤にミニチュアの玩具を配して景色を楽しむ箱庭遊びも流行しました。ほかに、子供の成長がうかがえるものとして、胞衣皿、下駄、迷子札を展示しました。子供が社会的な存在として認知されつつあった時代だからこそ、このように多くの玩具や関連物が登場したのでしょう。

玩具いろいろ [港区汐留遺跡]

独楽・サイコロ・鈴・船・刀・模造刀・羽子板・ミニチュア銭・ミニチュア下駄・ミニチュア独楽。

左：ままごと道具 [港区汐留遺跡]

羽釜・土瓶・片口・六角皿・瓶・碗・段重・臼・かまど・焜炉。

右：箱庭道具 [港区汐留遺跡]

三重塔・城・鳥居・灯篭・手水鉢・曲り家・楼閣。

左：人形（人物）[港区汐留遺跡]

木人形・天神・犬抱き坊主。

下：泥面子・芥子面 [港区汐留遺跡]

泥面子は地面上の目標に向かって投げ合い、互いに取り合った。

胞衣皿 [港区汐留遺跡]

胎盤を納めた。子供の成長を願い、人に踏まれる玄関口などに埋めた。18 世紀後半。

子供用下駄 [港区汐留遺跡]

鼻緒を通す「眼」がなく、代わりに釘穴が認められる。

迷子札 [港区汐留遺跡]

外出する際、子供の首にかけた。住所や年齢、名前などが書かれている。18 ～ 19 世紀。

江戸市中のペットたち

ペットの種類が大幅に増えるのも江戸時代からです。精神的・経済的に余裕が出てきたからでしょう。猫は以前も貴族の間で愛玩の対象でしたが、江戸時代に入るとネズミ除けの効果もあり、その流行は一般庶民にまで広がりました。犬が庶民の間でペット化するのは江戸時代後半のことです。その一方、将軍家や一部の大名の間では西洋犬や「狆」と呼ばれる小型犬が贈答や愛玩の対象となりました。また、サルやウサギなどのほ乳類、ウグイスやウズラなどの鳥類、カメや金魚、メダカ、そしてスズムシなどの昆虫も愛玩されました。

犬の土器棺 [江東区雲光院遺跡]

火消壺を転用した老犬「狆」の墓。大腿骨に病変が認められ歩行が困難だったと推定されるが、亡くなるまで大切にされたと考えられる。19 世紀前半。

明和三丙戌年
賢猫之塔
二月十一日

猫の墓石 [港区伊皿子貝塚遺跡]

「霊」ではなく「塔」となっているので、複数の猫を対象とした供養塔の可能性が考えられる。18 世紀後半。

港区指定有形文化財（考古資料）

上：鳥の餌入れ [新宿区尾張藩上屋敷跡遺跡]

当時、「鳴き合わせ」が流行し、鳥を飼う人が増えたらしい。18 世紀中葉。

右：動物たち [港区汐留遺跡]

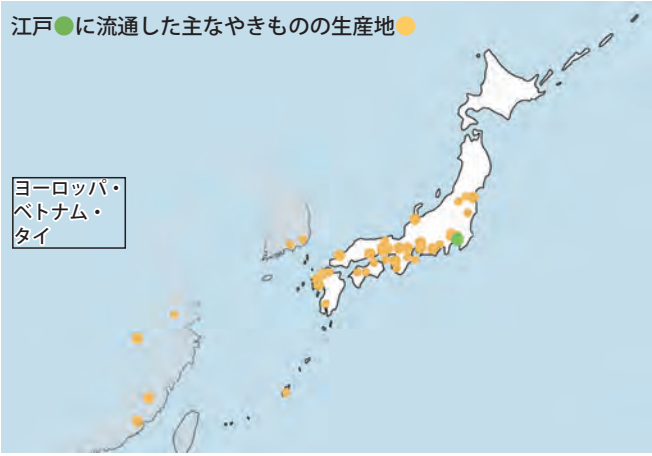
人形にしているところを見ると、身近な存在だったのだろう。18 ～ 19 世紀。

拡大する流通ネットワーク

江戸時代中期には世界一の人口を有したとされる江戸。膨大な生活物資などを供給するため、全国各地をつなぐ流通網が発達しました。このため、江戸の遺跡からは全国各地の産品が出土します。

やきものを例に、その様子を見てみましょう。東海・九州地方の大窯業地のほか、東北・関東・近畿・中国・四国地方、さらには中国・東南アジア・ヨーロッパなど、国外製品も含まれています。多彩な人やモノ、そして文化が行き交う「国際都市」東京の基盤は、すでにこの時代に築かれていたのでした。

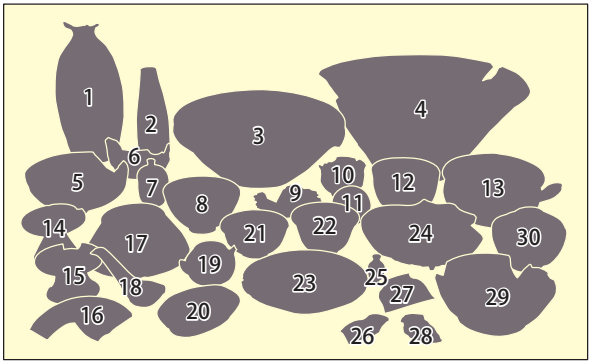
江戸時代後期頃は、各藩がやきもの作りを奨励したことから、江戸のやきもの市場はますます多彩になっていきます。



江戸の遺跡から出土する陶磁器の生産地は東北地方から九州・沖縄地方まで、さらには鎖国の時代であったにもかかわらず、中国各地、ベトナム、タイなどの東南アジア、イギリス、オランダなどのヨーロッパなど多岐に及ぶ。

右ページ写真のやきものの生産地

1. 壺屋：沖縄、2・5. 京焼：京都、3. 堺：大阪、4. 丹波：兵庫、6. 犬山：愛知、7. 備前：岡山、8. 唐津：佐賀、9. 三田：兵庫、10. 萩：岡山、11. 江戸：東京、12・22. 瀬戸・美濃：愛知・岐阜、13. 飯能：埼玉、14. 相馬：福島、15. 信楽：滋賀、16. レグー：オランダ、17. 賤機：静岡、18. 漳州：中国、19. 宜興：中国、25：中国、20. 富田：高知、21. 景徳鎮：中国、23. 関西系：近畿、24. 三河内：長崎、25. 中国、26. 九谷：石川、27. 徳化：中国、28. 湖東：滋賀、29. 安南：ベトナム、30. 肥前：佐賀



各窯業地では、江戸での販売をめぐってライバルとの熾烈な競争を繰り広げました。ほかの売れ筋商品を真似ることもしばしば。江戸での成功で発展した生産地もあれば、争いに敗れて撤退したところもありました。

古代からやきもの作りが盛んな瀬戸・美濃地方は、江戸に最も多くのやきものを供給した生産地。江戸の遺跡からも、実に様々なやきものが出土する。

＊瀬戸・美濃地方…現在の愛知県北部（瀬戸市）～岐阜県南部周辺（多治見・土岐・瑞浪市）

肥前・有田周辺は、江戸時代始めに日本で初めて磁器生産に成功した地域。白く艶やかなやきものをほぼ独占したことで、大きく発展した。

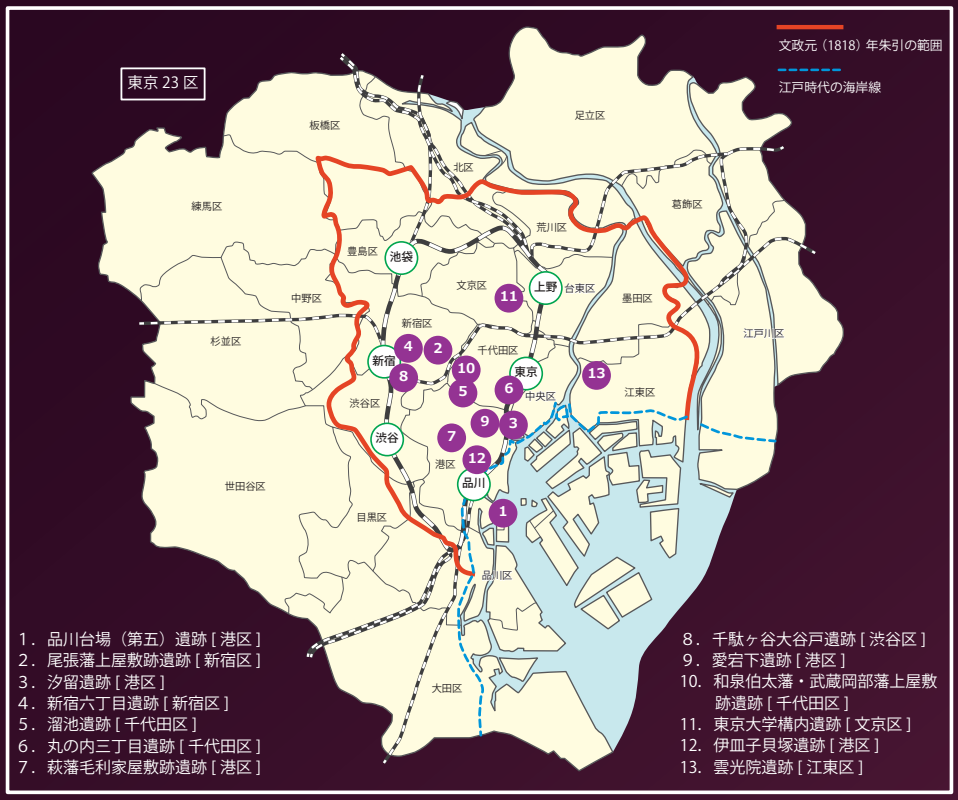
＊肥前・有田…現在の佐賀県有田町周辺

地方の窯の中には、特定の品に絞ることで、江戸での評判を勝ち取ったところもある。例えば、堺は丈夫な擂鉢で勝負し、江戸時代中期以降は、そのトップブランドになったのだった。

＊堺…現在の大阪府堺市

様々な生産地から流通して きた陶磁器

企画展示で取り上げた江戸遺跡



協力機関・協力者一覧　敬称略・五十音順

本企画展示開催にあたり、下記の機関、並びに関係者の方に御指導・御協力をいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

江東区教育委員会　神戸市立博物館　品川区立品川歴史館　鶴岡市郷土資料館
東京大学埋蔵文化財調査室　東京都江戸東京博物館　東京都教育委員会
東京都立中央図書館　港区教育委員会　もりおか歴史文化館

相原正人　金子　智　川野憲一　小林照子　小宮幸一　今野　章
髙山　優　中野光将　野本賢二　堀内秀樹　益田　茂　山根洋子

平成 29 年度企画展示『東京発掘　江戸っ子のくらしと文化』展示解説冊子
平成 29 年 10 月 31 日発行
編集・発行　公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター
〒 206-0033　東京都多摩市落合 1-14-2　電話 042-373-5296
印　　刷　株式会社髙尾印刷
〒 193-0834　東京都八王子市東浅川町 526-1　電話 042-661-1507